



兵庫県立舞子高等学校環境防災科の取組

兵庫県立舞子高等学校
校長 太古 千恵美

1 環境防災科の設置

平成7年1月17日、淡路島北部でM7.3の地震が起きました。発生後、日本中、世界中から、のべ138万人のボランティアの方々から支援を頂きました。震災は大変なことでしたが、平成7年が「ボランティア元年」といわれるように、たくさんの方が「人は一人では生きられない、助けあい大切さ」を学びました。そして、震災後、兵庫県では命の大切さや助け合いのすばらしさなど、阪神・淡路大震災の教訓に学ぶ「新たな防災教育」を推進してきましたが、それを特色ある専門学科で展開しようと、平成14年4月環境防災科が設置されました。以下は設置当初からの3つの理念です。

- (1)「新たな防災教育」を縦軸に、自然環境や社会環境を横軸に専門的に学ぶ。
- (2)実践的・体験的な学習を行う。
- (3)災害に対応する力を身につけ、自分で考え、地域で活動するリーダーを育てる。

2 特徴的な授業

年間授業の3分の1程度、専門教科「環境防災」(27~31単位)を学習します。

※「災害と人間」(5単位)は、阪神・淡路大震災を学ぶ科目です。特別講師を招いて、震災当時の様子や復旧・復興の過程を学びます。講師は、消防士、レスキュー犬訓練士、警察、自衛隊、電気・ガス会社、水道局、大学教授、研究機関



レスキュー犬訓練士



六甲山フィールドワーク

の専門家、福祉、企業、NPO等の方々です。

※「環境と科学」(4単位)では、専門家から六甲山の現地でフィールドワークを通して、地層のズレ等について学びます。

※消防学校への体験入校(1年は1日、2年は2日)では、専門的知識を「活かす」力を習得し、小学生との連携授業(安全マップづくり、出前授業、スタンプラリー)や地域の防災訓練やイベントでは、実践的に「備える」防災教育の重要な役割を学びます。



安全マップづくり

3 「伝える」経験や教訓を語り継ぐ

「1. 17阪神・淡路大震災を忘れない—
21世紀を担う私たちの使命—」

阪神・淡路大震災は、6,434人の尊い命、鉄道や高速道路、昔からの町並みとそこに暮らす人々の生活など、すべてを奪いました。あの日を経験したものにとって生涯忘れることのない体験です。震災への悔しい思いや悲しい思いから流した涙の多さが、復興の原動力となり、次世代に語り継ぐことの大切さを心に誓いました。校内では、1月15日（金）に16回目の追悼行事を行いました。県内の追悼行事は、16日～17日で実施され、手伝いをさせていただきました。

4 防災ジュニアリーダーの育成

本校環境防災科は全国で唯一の専門学科として、これからの防災・減災の担い手である中・高校生を中心に、今後の災害に備え、その取組や内容を日本全体に実践し広げていく全国防災ジュニアリーダーの育成に平成23年から取り組んでいます。5回目の今年は、県内外から23校が参加し、防災合宿やひょうご安全の日の追悼行事に参加し実践力を養います。

今春15期生が入学してきますが、今後も、環境防災科として専門的に学ぶと共に、元気で積極的に地域のリーダーとして行動できる生徒の育成に努めていきたいと思えます。



全国防災ミーティングin東北 平成24年12月22日～23日



震災メモリアル行事

「経験していないから」というのは絶対関係ない。経験しなくても伝えられることはたくさんある。とても難しいことではあるが残された者、生きている者の使命である。ぼくは阪神・淡路大震災をいつまでも忘れない。

環境防災科11期生 成尾春輝
(H27.3 卒業)